



昨年の卒業式から

## 地球市民としての 価値観とセンスを

関西大学学長 永田真三郎

卒業生の諸君、おめでとうございます。

いま、諸君は、新たな出発に向けて、大きな期待とともにいささかの戸惑いのなかにあるのではないかと思います。この戸惑いは、これまでに、若者として、関西大学の学生として体得してきた感覚・価値観・ライフスタイルと、これから迎えてくれる「大人達」の社会のそれとの間にある「ずれ」に対するものであろうと思います。しかし、この世代間の認識のギャップによる軋轢は、過去のどの時代も経験してきたものであります。そして、この軋轢が、ときには、社会の進歩をもたらし、ときには、大きな改革を惹き起こす原動力でもありました。皆さんの若者としての新しい感覚や価値観を、安易な納得や無理な協調によって日常性に流されてしまつことなく、大切にしたいと思えます。

そして、二十一世紀の最初の年に大学を巣立つ皆さんは、社会に出てもう一つの認識のギャップに直面することになります。それは、「大人達」の社会を自己が直面しているもので、私たちの社会の伝統的な考え方や行動様式と、地球市民としてのグローバル・スタンダードとのギャップです。

私たちの地球がもう少し大きかった頃、つい十年ほど前までは、「国際化」という標語のもとで、トランスナショナルな、あるいは、インターナショナルな経験をできるだけ多く積んで、その感覚をみがくことが強調されました。国や社会の間に見られるルールの違いについては、それに関わる人々によって適切な妥協を図ることの必要性が説かれました。多くのシンポジウムでは、どのような分野でも、異なるルールの「ハーモナイゼーション（調和）」を着眼点とする議論が展開されました。

しかし、インターネットの広範でかつ急激な普及によって、世界が地球という小さな村（グローバル・ヴィレッジ）になってしまった現在では、求められるのは、異なるルール間の「ハーモナイゼーション」にとどまらず、この小さな村に共通するルールを発見すること、あるいはそのルールを創造することになってきました。たとえば、eコマースについては、アメリカでもヨーロッパでも、そして日本を含むアジアでも、ほぼ共通して「非対称暗号鍵」による認証ルールが確立されてきました。「印鑑証明」

による認証という日本の伝統的なルールは、この新しいグローバル・スタンダードによって徐々に凌駕されつつあります。このような法制面だけではなく、いまや、市民生活での様々な局面で、広範な情報の共有による競争環境の中であって、勝手な思い込みによる独自性は通用しなくなり、地球市民としての感覚・価値観が求められているのです。

二十一世紀の新たな担い手として、地球市民として、諸君の活躍を大いに期待しています。

### HEADLINE

- 3 面 卒業式を挙行・卒業されるみなさんへ
- 4・5 面 21世紀へのジャンプ台
- 6・7 面 大学を去るに当たって
- 8 面 思い出のキャンパス

「関西大学この4年」

関西大学の学生生活は卒業式で終わる。しかし終りにして欲しいものはない。それは、卒業生が卒業後も、その最たるものは友達だ。ゼミ、サークル、バイト、遊びなど学生生活のさまざまな機会に友達が出来たであろう。この友達関係を社会に出ても大事にしたい。▼現代の若者はその人間関係が希薄化しているといわれるが、必ずしもそうではない。状況に応じて気軽にスイッチを切り替えるような人間関係が志向されているのである。一昔前には全人格的な関係が築けてこそ親友と考えられていたが、多様化した価値観のもとでめまぐるしく変化する現代社会ではそのような関係は望むべくもなく、むしろ部分的な人間関係の方が自然であろう。このような関係でも、その時々局面では「濃い」関係が展開されている▼社会に出てしまえば、忙しいうちに仕事上の付き合いが多くなり、大学の時のような「純」で「濃い」関係は作りにくくなる。屈託なく話し合えた大学時代の友達付き合いは若い時だけなく、たまにしか会えなくなる中年や老人になっても、非常に大切な関係となってくるのだ。（常木暎生）

2001/03/21/01











この春、関西大学を去られる先方に、お言葉を寄せていただきまし...

関西大、これからこそ...

文学部教授 青木 晃



関西大の動いている時代、動いている時代、動いている時代...

回想と学生諸君へのお勧め

文学部教授 越川 正三



関西大の動いている時代、動いている時代、動いている時代...

自由な学風の関大に感謝

文学部教授 小山 仁示



私のような年齢の日本史研究者にとって、林屋三郎氏が一九五五年に地方史...

大学を去るに当たって

大学を去るに当たって、自分の講義がどの程度生に理解され...

変わるもの、変らないもの

社会学部教授 掛川トミ子



大学を去るに当たって、自分の講義がどの程度生に理解され...

インターネットに脅かされて

総合情報学部教授 名和小太郎



あつたか、大学教師という職業をめざして...

若い世代の健闘を祈る

総合情報学部教授 三宅 一郎



関西大学の五年はあっという間に過ぎた。五年とは、私の教生最後の五年...

関大を去るに当たって

文学部教授 西村規矩夫



善行以来二十五。勤務機関として、生半端な最も長い期間を本学でお世話...

図書館の魅力

文学部教授 樋口 欣三



私が関西大に勤めたのは、現在の図書館が完成して間もなくのこと...

新時代にふさわしい改革を

文学部教授 前原 昌仁



一九四八年、白銀二条に創設された法学部が、五年あ...

妥協と馴れあいとは違う

経済学部教授 小林 英夫



大阪に育ち、周囲に関大を見て育ったから、関西大学で職業生活を全う...

進む道を教えられる

経済学部教授 角山 幸洋



この月、私の著書に「保険論」とも新しい学問である「リスクマネジメント論」を講義...

質量ともに豊かな関大

商学部教授 亀井 利明



乳業事件を始め、幾つかの驚くべき事件が発生...

終焉そして転生

社会学部教授 神谷 国弘



われわれの定年と学生諸君の卒業とは何か似て、過ぎた日とこれから...

訪中の思い出

工学部教授 薬師寺正雄



が始まったばかりのこと、物珍しさも手伝って熱く歓迎をうけ、多の知己...

手づくりの研究室

工学部教授 吉川 和広



平成六年に本学工学部土木工学科に迎えられ、新しく開設された地域計画研究...

関西大学のスペイン語

外国語教育研究機構教授 柴山 了一



の先が出席し、カリキュラムの作成を担当する...

大学を去るに当たって

- 今年度、退職されるのは次の方々です。 (経済学部) 前原 昌仁、小島 正三、三見 彰男...

教職員の醸す暖かい雰囲気

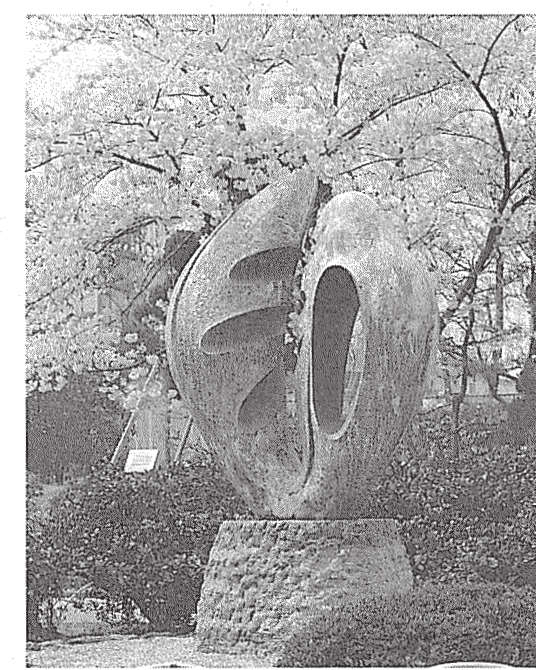
工学部教授 岡田 隆夫



長かった五年にわたる大学生活に終止符を打つこととなり、その最後の七年間を関西大で楽しく過ごさせて頂きました...

バイオとともに

工学部教授 徳山 泰



関大在職四十年、その間、担当は化学工学、教養、生物工学と学科は変わ...

新たな教授法の工夫を

工学部教授 鉄川 精



本学を去る日が、本学で三学部を渡り歩いたのは、恐らく一人だけと思う...

関西大学のスペイン語は、開講されて以来四十年以上経過しているが、専任の教員として採用されたのは、私が最初である...



関大通信 第288号

平成13年(2001年)3月19日  
大阪府吹田市山手町3-3-35  
http://www.kansai-u.ac.jp/

歓大

# 思い出のキャンパス

感大

寛大

あなたの「かんだい」は

還大

冠大

どれですか？

幹大



# 関西大学

## 関西大学この4年

### 平成9年

- 4月 エクステンション・リードセンター開設  
// 漢陽大学校、ロンドン大学 SOAS と学生交換協定を締結
- 6月 白馬梅池高原ロッジが完成
- 9月 ハイテク・リサーチ・センター及び工学部第5実験棟が竣工

### 平成10年

- 2月 高槻キャンパスに大学院棟が竣工  
// ウェブスター大学と交流協定を締結
- 3月 学術フロンティア・センターが竣工  
// タマサート大学と学生交換協定を締結
- 4月 高槻キャンパスに大学院総合情報学研究科(修士課程)を開設  
// 文学部の学科名称を変更
- 9月 パリ大学Ⅲ(ソルボンヌ・ヌーベル)と交流協定を締結
- 12月 北京大学と交流協定を締結

### 平成11年

- 6月 サテライト・ステーションが完成
- 7月 ゲッティンゲン大学と交流協定を締結(12年に学生交流に関する覚書に調印)
- 11月 六甲山荘がオープン

### 平成12年

- 4月 既存の学部と同等の組織として、外国語教育研究機構が発足
- 6月 法学研究所等施設(仮称)の起工式を挙げる
- 7月 新大学院棟「尚文館」が竣工
- 9月 学長選挙会が行われ、第37代学長に永田眞三郎法学部教授を選出
- 10月 臨時評議員会で、理事長に羽間平安氏、専務理事に森本靖一郎氏を選任  
// ウェブスター大学と共同学位プログラムに関する協定を締結



①

大学院棟「尚文館」竣工  
芝生広場周辺が学生の憩いの場(12年7月)(写真①②)



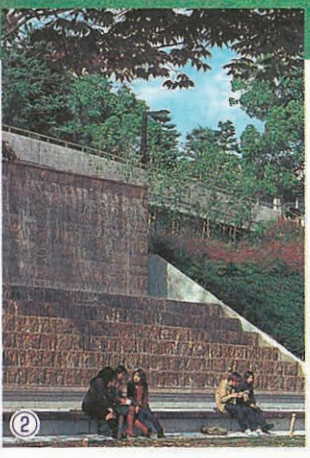
③

### IT化するキャンパス

- (ア) iモードで多様化する就職活動(11年12月)(写真③)
- (イ) 証明書自動発行機が登場(11年9月)(写真④)
- (ウ) WWW 版蔵書検索システム「KOARA」が登場、自宅から図書検索が可能に(10年4月)



④



②



⑤ 地元に着した高槻キャンパス祭、模擬店も大いに賑わう(写真⑤)

### 高槻キャンパス祭



⑥ 樹上生活にチャレンジ(12年9月~12月)(写真⑥)

探検部がアマゾン遠征



### 後夜祭

⑧ 第4グラウンドに場所を移して後夜祭が開催された(11年11月)(写真⑧)  
※4600人収容のスタンドはまもなく完成予定



### 千里山でERC

⑦ エクステンション・リードセンターが千里山キャンパスでも受講可能に(写真⑦)

手にした時はそれほどとは思わないけど、使っているうちにしつくりと馴染み、五年もたてばどうにも手放せないようなものが誰にもある。大学で得た知識も、そのようなものだ。社会に出て、理論と現実の不一致に気づいたときから、学校で無理やり飲み込んだものが体の中で溶け出す。しかも確実に。

そもそも理論は現実のコピーではない。大学教師は、事実を単に解説しているのではない。そこに自らの理念を込めて話をし、社会の現実を迷ったとき、大学で学んだ理論がどのような動機にせがまれて生まれ、現実をどのように超えようとしたのかを考えてほしい。考えることによって、大学で学んだ知識が一生使える道具になるだろう。(園田寿)



編集後記